



長 崎 県
中小企業家同友会

DOYU

ニュース
21

E-mail jimu@nagasaki.doyu.jp
U R L http://www.nagasaki.doyu.jp

本部事務局 長崎市栄町1-20 大野ビル5F ☎(095)822-0680 FAX (095)824-4623

「私たち中小企業家が長崎を牽引していく！」
～地域と共に生きる長崎同友会 会勢600名を達成しよう!～

2015年度 合同入社式 開催!!

日時：4月1日(水) 10:00～16:00 会場：長崎インターナショナルホテル



長崎県中小企業家同友会初となる合同入社式を29名の澆刺とした新入社員と同伴の会員企業の関係者、オブザーバー参加会員を含め約60名で開催致しました。

最初に松尾代表理事より、同友会の役割そして今後新入社員に期待するはなむけの言葉をいただきました。新入社員のみなさんの、緊張した趣で真剣に耳を傾ける姿が印象的でした。

その後、お一人お一人お名前を読み上げ、その場での起立と、参加者全員より拍手で歓迎され、場の雰囲気も和やかになったように思いました。

記念講演は、長崎県中小企業家同友会大村支部アドバイザー (株)富建 代表取締役社長 富永さんより「社会人とは」というテーマでお話いただきました。創業105年の歴史から始まり、ご自身の40年前に

経験された社会人一年生当時を振り返ったお話は、新入社員と同じ目線で立たれた内容で親近感を得られたのではないかと思います。そして、社会人としての心構え、金銭の貸し借りの注意点、開運10ヶ条の内容など、実にいろんな視点からのお話は、二週間前まで学生生活を送っていた新入社員にとって新鮮でかつ身が引き締まる内容ではなかったかと思います。

講演終了後、各グループに分かれ、同友会の特徴でもあるグループディスカッションで学びを深め、更に各グループ代表より発表を行い、学びの共有が出来たことは、大変良かったと思います。やはりインプットの後アウトプットすることが学びを深める一つの手段だと改めて感じました。

第二部においては、「新入社員が身につけたいコミュニケーション」と題して、長崎支部出島地区会 西山



目次

2015年度 合同入社式 開催報告	1	中同協 第2回 企業連携推進協定会 in 広島 参加報告	17
第45回 中小企業問題全国研究集会 in 神奈川 参加報告	2	中同協 第2回 政策委員会 参加報告	17
3月例会報告	7	地域密着型金融に関するシンポジウム 参加報告	18
会員活躍	14	入会・復会・交代会員紹介	19
佐世保支部 総務委員会主催研修会 開催報告	15	5月例会・総会案内	22
島原支部 鹿児島訪問	15	理事会議事録 抜粋	23
中同協 第27回 中小企業憲章・条例推進本部会議 参加報告	16	会員消息・会員数	24

さんよりコミュニケーションゲームを交えて講義をいただきました。社会人としての基本的なコミュニケーションは元より、枠を超えて自分の力を発揮する大切さを学ばれたのではないかと思います。まさに「常識で考えるのではなく、常識を考える」という言葉にふさわしい気づきを与える内容だったと思います。

最後に、入社ならびに社会人宣言を、お一人ずつ登壇し発表していただきました。「地域のお役に立つ社員になる」「思いやりを持って接していきたい」「自立した人間になる」「社長を超える人間に成長する」といった頼もしい宣言が次から次へと発表され、オブザーバーで参加された社長の皆様は、目を細めておられました。

富永さんの講演語録ではありませんが、「今日まではリハーサル、明日からが本番」という言葉通り、今日からそして明日からへの希望を胸に、一日でも早く成長し、会社をひいては社会に貢献できる人財へと成長していただきたいとエールを送りました。

今後は、合同入社式が終わりではなく、長崎県中小企業家同友会共育委員会として、7月、11月、翌年



3月とフォローアップ研修を企画し、新入社員の成長ぶりを見届けていく予定です。

これまで、準備を重ねて下さった、各支部の共育委員会の皆様、事務局の皆さん、そして松尾代表理事はじめ、富永さん、西山さん、ご参加いただきました会員の皆様、誠にありがとうございました。これを機に地域に根差した同友会活動を推進して参ります。

(文責 共育委員長 土井 幸喜)

中同協

第45回 中小企業問題全国研究集会 in 神奈川(3月5・6日) 参加報告

第1分科会

転機に立つ日本経済と 中小企業の新たな役割を探る

同友会の存在意義は何か

駒澤大学経済学部 教授 吉田 敬一 氏
中同協・企業環境研究センター 座長

大村支部 橋口 仁一

明治維新から1990年代にかけて、ナショナル循環とローカル循環によって大きな発展を遂げていた日本経済が、今日のアベノミクスによってグローバル循環型経済へ転換していこうという大きな転機に立たされています。我々中小企業にとっては大打撃となりうるこの転換期において、今一度イタリアやフランスを例とした衣食住が地域の中で完結できるナショナル循環型経済やローカル循環型経済に再び目を向けていくべきとの話がありました。

日本の企業数の99%以上を占め、日本の経済発展を支えてきた中小企業は、この構造転換の中でも地域に根差して果たさなければならない役割は非常に大きなものであると感じました。今後も同友会の存在意義と目的に照らし合わせながら、活私創社型の会社づくりと地域経済の持続的な発展に貢献するために一個人の小さな力でも努力していこうと思います。

2日目の全体会は、「横浜シウマイ」で有名な(株)



崎陽軒の野並社長の記念講演でした。崎陽軒のシウマイが名産品のなかった横浜の名物となり愛され続けてきた歴史から始まり、長い会社経営の中で得た成功や失敗による教訓等を元に作成された経営理念、そしてその経営理念とともに次の100年を目指していくと



いう野並社長の経営者としての姿勢に強く共感しました。また、経営理念の中に盛り込まれた、ナショナルブランドではなく、真に優れた「ローカルブランド」をめざしていくという言葉にも中小企業として地域に根差した会社経営の価値や意味を強く持っていました。



しゃるのだと思いました。

普段お会いすることのできない全国の会員の皆さんと交流できたことや、一緒に参加された長崎同友会の会員の皆さんとの交流を更に深めることができ、非常に有意義な2日間となりました。

第4分科会

オリジナル商品で活路を見出す！

社員を主役にした付加価値の高い企業づくりの実践

保安道路企画(株) 代表取締役 森 健太郎 氏
神奈川同友会 産学交流委員

同友会事務局 田口 友廣



報告者は神奈川で道路保安用品の販売及びリース等を行っている森 健太郎氏です。新しい商材を探すため渡米した森氏は、そこで出会った「ポストフレックス」を持ち帰り日本仕様に加工し、販売したところ次々に官公庁に採用されました。またフジテレビ系列の番組で紹介され、注目を集めることとなります。

会社を買い取った当初は、社員も社長も挑戦意欲がなく、風通しが悪かったそうです。そういった状況を脱却するために、「社長でなきゃ答えられないの撲滅」や「社員にルールを決めて仕事を任せろ」「社長が現場に出るの辞める」といった仕組みづくりを始めます。しかしその一方で製品開発を始めるもののお金もアイデアもなく、海外視察に活路を求めオリジナル商品を生み出そうと考えました。



そうして開発したオリジナル商品が上記のポストフレックスですが、オリジナル商品を持つことで「全国展開できる・良い商品を持つことで売りたい・どんな会社か分かりやすくなる・価格決定権を持てる」「財務内容が健全経営に変わる」「やるべきことがはっきりする」といった風に会社が変わっていったと語られました。また、オリジナル商品の開発にあたっては、異業種ではなく隣の事業を狙う・売る時のことを考えて商品開発する・撤退期限を決めるといったことが大切であり、特に中小企業はPRが弱いのでHP・SNSの活用や賞を取ることでイメージアップを狙うことの必要性も訴えられました。

ただしオリジナル商品を作ることは容易ではありません。しかし「オリジナル商品ができなくても、仕組みづくりはできます。社長の仕事は外から情報を得て、それを社内に持ち込むこと」と森氏は語りました。例えば例会で自社でもできそうなことを聞いたらすぐに実践するそうです。

「行動力は誰でも持てる力である。」と最後におっしゃったことが、非常に印象的で学ぶだけでなく実践することの大切さを改めて感じる事ができた分科会でした。

第7分科会

顧客満足を高める店づくり・商品づくり

普通の女性が普通の商品を扱っているのに、なぜ人の心を掴むのか

(有)ラ・フルール 代表取締役
神奈川同友会 横浜支部幹事

今村 奈美子 氏

(株)エスプランニングス 代表取締役 重野 佐和子 氏

大村支部 宇土 敏郎

重野氏は学生時代より料理研究家を目指し、フリーの料理家として活躍しておられましたが、突然の病(大腸がん)を患い、全ての活動を休止。患者になって「自分の好きなもの」を食べたくても食べられるものがないことに気付き、「体にやさしいナチュラルスイーツ」を開発され、自宅で「焼き菓子のアトリエ Café Rico」を開店、その後看板商品「おからパーフェクトマフィン」を誕生させています。その後もう一店 OPEN させ、ネットショップも好評です。

普通の女性が、自分のために考えた体に良い菓子を作り、コツコツ活動したが売れず苦労をされました。自分の思いが強く、お客様のことを考えていないことに気付き、「お客様の声を聴く」「スタッフの声を聴く」「先輩経営者の声を聴く」から始め、とにかく「思いを伝え、知ってもらう」に心掛けられ、メディアとも仲良くされ、徐々に認知され始め、業績が改善されます。でも甘えることなく、週替わりでメニューを変えることにより、お客様に飽きられない工夫を行って

います。最後に、「すぐ近くにダイヤモンドがある」と。誰にも身近にチャンスがある。小さい会社だから、出来ることから、自分の強みから、そしてお客様に認めてもらえるような努力が必要と話されました。

今村氏は会社員から好きなことを始めたくて、花屋とカフェで修業後開業。社員と一緒に頑張ったが、失敗ばかり。同友会に入り、「経営」について教えてもらった。特に戦略については、他社との差別化を目指し、「ギフト向け専門花屋」で廃棄を抑え、「子連れカフェ」で地元密着の若い子育て主婦の情報交流の場を提案した。その後、男性専門に記念日を事前に通知してくれる「フラワーギフト【もて花】」を開始、人々の交流の場を創造し続けておられます。

お二人の話をお聞きし、改めて思ったことは、「女性ならではの発想と気配り」が活躍の場を創造すること。また「スモールビジネスだからできる顧客との付き合い方」が成功の要因になれると確信しました。

グループ討議は「お客様の心を掴むには」というテーマでした。まとめると、①人を大切にしている ②理念のもと社員教育を ③地域の期待に応えること ④お客様の期待を超える驚き・感動を ⑤プレミアム感を、になりました。

この分科会は、神奈川同友会が「こだわった分科会」であり、初めて「女性でも活躍できるスモールビジネス」にスポットを当てたようです。運営のほとんどが女性の会員で熱い思いがほとばしっていました。

全研の素晴らしさを実感できた二日間でした。

第9分科会

育成出来ない会社に未来はない！！

共に育ち、共に活き、共に発展の実践

(株)木村工業 代表取締役
東京同友会 経営労働委員長

木村 晃一 氏

大村支部 生野 信一郎

社内の人間関係… 少人数の会社なのに、社員同士のいざこざや言いたい事があるのに発言できていない風通しの悪さ、組織を変えることで改善させているつもりが改悪ではなかったかとの不安、人材関係の悩みを頭にいっぱい抱えながらの参加でした。

木村氏の報告は、引き継いだ当時喧嘩で鼻血を流している職員を見ることは日常茶飯事、会計も仕事をたくさんすれば利益は上がるだろうというドンブリ勘定の営業だった会社を、経営指針の導入等により社内風土の改善、減収増益への変革をわずか3年程度で成し遂げたという内容でした。

急激な変革をする上でのごたごたや負けない意志の強さ、そのパワーの源まで感じられなかったのは残念

でしたが、似たような業種で、規模が大体10分の1である弊社との比較ができ、自分のぬるま湯ぶりを痛感しました。

さて、お楽しみのグループディスカッションの中で社員面談の話題が出たので、「社員面談の内容」を教えてほしいと要望しました。実は、社内の風通しが悪くなったと感じ社員面談を始めていたのですが、何かおざなりで上手くいってないように感じていたのです。皆さんの回答は、「特に難しく考えず、日常会話をする中で、自分の伝えたい事を伝えているだけ」とあっけない回答でした。但し一人に2時間以上かけるとのこと、私は1時間と持てないというのに…

社員面談についてあらゆるアドバイスをいただきましたが、途中で腑に落ちる質問が私に投げられました。「生野君社員のこと好き？」

???

そういえば形にばかりとらわれて社員と真正面から向き合っていなかったのではないかと!! これは大変なことだ!! 単純なことを忘れていました。間に合うかどうかわかりませんが、早速動かねば!!

と強く感じさせていただいた全研でした。

大村支部 大塚 真一

今回私が第9分科会を選んだ理由は、創業からの生い立ちそして、先代の社長が親分肌で子供と父親のように社員を大事に家族のような会社を運営してきていることがとても、自社の創業時とよく似ていて、今までどのような悩みを持ち、ここまで経営され人材教育に取り組んでこられたのか、そして組織になってからどのように運営されてきたのか、とても興味があったからです。170名を越す参加者であふれ今迄にない活気に溢れた報告会場となりました。

木村社長は25歳で入社、当時は8割が出稼ぎ労働者で、社員が定着していない状況、また事故災害も多かったようです。その様な中先代の社長の求引力の凄さに圧倒されながら2007年に社長交代をされました。創業者のようになろうと背中を追いかけ努力しながら、同友会において経営理念と個人目標を作成され、

共に育つ仕組みを構築されました。多くのことに反対されながらも、自らが変わることの必要性を知り、行動評価制度を作り上げ、それが最終的には売り上げに繋がることを確信されたようです。

また社員との個人面談を実施され会社の理念を十分に社員へ伝え、一人じゃなく社員と共に育つこと、社員はパートナーであること、社内研修制度の仕組みを作り上げ、教え方も先輩が後輩に教えてもらい、先輩は技術を後輩へ伝えて行くという流れをつくられ、より早く技術を覚え現場において実践されており、その流れは大変素晴らしく驚かされました。

今回の分科会において経営理念・指針の重要性を改めて知り、社員一人一人の満足、社員一人一人が幸せになる、人間力を高める、そして社員がどこへ行っても自立し社会の為、そして地域に貢献できる人材として育成することがとても大事だと改めて認識しました。

大村支部 金井 政春

「未来を創造する企業づくりへの挑戦!」「環境変化に対応できる地域、組織、仕事をつくろう」のテーマに刺激され参加を決意しました。

父親である先代社長は人情家で牽引力が強く超ワマン経営者だったそうです。何事においてもどっぷり経営で事故、怪我が絶えない会社でした。35歳で社長就任と同時に同友会に入会され経営理念を作成し社内で発表されますが、社員さんに受入れて貰えなかったそうです。

同友会の会員さんに相談し朝礼と個人面談を実施、会社の経営理念と社員の個人目標について面談する中で、経営理念を通じて共に育つ社風づくりに努められました。社風作りのコツは しつこく、しつこく、粘り強くです、と話されました。企業の継続発展が社員の幸せ、地域の幸せに繋がる事を共有できる社風づくりに取り組みたいと思いました。又、女性が働きやすい会社、障害者を雇用出来る会社、外国人労働者を雇用できる会社になる様に社内の環境整備について考える必要性を感じました。

「経営者としての覚悟を決めて社員にまかせる、社員の自立を促す事が社員教育です」と木村社長は締められました。

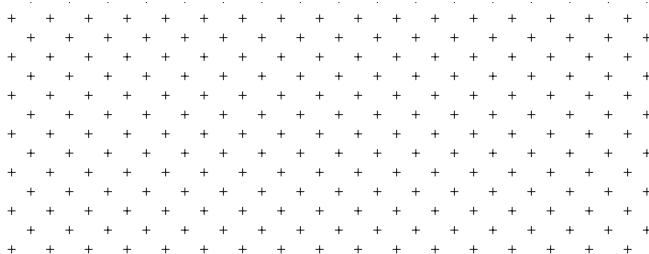
2日目の記念講演は(株)崎陽軒 代表取締役社長 野並 直文氏でした。創業107年目を向かえる3代目社長の記念講演に最初は、会社の規模、歴史、業種すべてが違い過ぎて私の参考になるべき所は無いと思っていました。しかし、会社の規模は違っても経営に対する姿勢の基本は同じ様に思えました。創業者の並々ならぬ努力、心意気を十分理解された上に、変えるべきものを変える勇気、変えては成らないものを変えな

い、包容力を持って時流に沿った経営を心がけているそうです。

その他にも、自分の使命をしっかりとやる。身の丈にあった成長(調子に乗るな、自分の器)。会社に規律の文化を浸透させよう(特に社長は自分を律する事)と話されました。

100年企業で年商200億以上、社員数500数名の会社の野並社長の謙虚で温厚で紳士的な姿勢に大変感銘を受けました。

今度の全国大会には大村支部から14名の参加があり、皆で横浜での楽しい思い出も作れ学びと親睦の両面で大変有意義な時間となりました。参加させていただき有難う御座いました。



第14分科会

地方の産業活性は
中小企業振興基本条例の枠組みで

中小企業振興基本条例運動の現状確認と今後の課題

慶応義塾大学経済学部 教授 植田 浩史 氏
中同協・企業環境研究センター 副座長

大村支部 得田 稔

全国から集まった同友会メンバー約40名の方々と意見交換してきました。

はじめに、慶応義塾大学経済学部の教授で中同協の企業環境研究センターの副座長を務める植田さんが登壇。そこでは、中小企業振興基本条例は基本的な考え方を提示している『理念条例』であり、具体的な政策の内容を示すものではないこと、そして何もやらなかったら何も進まないが、逆にいくらでも決めることができるので、「自立」と「自律」と「連携」をキーワードに、この条例のめざすものの良いところを活かしていくことに意義があると報告がありました。

続いて、「条例と調査および振興会議の3点セットで地域を元気にする方法を考えましょう」のテーマで

6グループに分かれてのディスカッション。条例制定がゴールになってしまって具体的な政策がなかなか出てこないといった地域が多くある中、同友会が戦略的に活動を主導している地域もあり、意見が尽きることなく話が大変盛り上がり、私のグループでは次の3点の学びを発表しました。

まず、条例は『地域の経営指針』でありスタートであること、次に、調査と振興施策には同友会活動の成功事例を反映するなど地域の教育的役割を果たしていくことを、そして、振興会議では委員相互の信頼関係を築き、成功事例を基に地域全体の付加価値をバリューチェーンして元気な企業を増やしていくことで地域を元気にしていこうと学び合いました。

地域全体で中小企業支援を行って(地域が変わり)、環境変化を認識し積極的に乗り越えられるように自ら変革し(中小企業が変わり)、そして地域と企業と創造を中心に中小企業振興への考え方を変えていけるよう、地域の未来を創造する企業づくりに挑戦する「覚悟」を決めることへの気付きのあった全国研究集会でした。

第16分科会

進化し続ける企業をめざす 鋼材加工メーカーの挑戦！

問題解決を社員とともに

京浜産業(株) 代表取締役副会長 酒匂 雅隆 氏
神奈川同友会 代表理事

大村支部 徳田 信義

酒匂氏は大手鉄鋼メーカーに26年間勤務され、15年前にお父さんが創業されている鋼材加工会社に入社。現在では神奈川県下4工場、本社、営業所の6か所の拠点を擁し、普通鋼からステンレス、アルミに至るまでの材料を扱い、一貫加工センターとしての機能を展開されており、見学は久里浜工場で、酒匂氏から前職の経験を生かした自社の様々な改善活動やあらゆる加工に対応出来る技術と設備を生かした経営戦略の報告をしていただきました。

入社して大企業と中小企業のギャップを実感し良い面と劣る面を細かく分析し、改革を実行された内容でした。実行する過程で同友会に入会し経営理念を作成し明文化されたり、企業変革プログラムを活用されたり、社員や労働組合と良く話し合い会社への要望を聞いたり、社員教育制度を改善しながらリーマンショックの時危機を迎え、生き残りをかけて社員と共に乗り越えられたそうです。

私の感想ですが、酒匂氏は同友会での学びを会社に持ち帰り忠実に実行され現在の優良企業に成っているのではないかと思います。現在は神奈川同友会の代

表理事として活躍しておられます。

記念講演は「伝統と革新、100年企業の教訓」というテーマで(株)崎陽軒、横浜シウマイで有名な三代目社長の講演が有りました。老舗で有りながらその時その時の時代を見据えながら時代を乗り越えられてブランド確立し優良企業に成っているのだと感じました。これも経営指針を作成し確実に実行されて社員さんを大事にしている会社だと感じました。

今回、大村支部から14名、他支部からは残念ながら1名しか参加が有りませんでした。全国大会に参加すれば色々な経営者の方とお会い出来て、また違った刺激を受け経営に対しての考え方を見直す機会に成ると私は思いました。

今回参加して思ったのは経営指針を成文化し確実に実行し、社員をもっと大事にしないと良い会社、良い経営者、良い経営環境には成らないのだと実感しました。14名一緒に参加して本音で語り合いさらに支部の絆が強くなったと感じました。

A 10x10 grid of plus signs (+) on a white background. The plus signs are arranged in a regular, repeating pattern across the entire grid.

長崎支部 浦上地区会 例会報告

日 時	3月25日(水) 午後6時30分
会 場	ギャラリーヘキサ
テ ー マ	自立型の人材が育つ、たった二つのこと
報 告 者	(株)マツモト 代表取締役 松本 一孝 会員



3月の例会は(株)マツモトの松本 一孝さんにワークショップを取り入れた形式で行っていただきました。経営理念にお客様を“ワクワクさせる”ことを掲げている松本さん。例会の雰囲気も“ワクワク”したものとなりました。

松本さんは中小企業に必要なことはいい人材に育てることだと言います。自立型人材(自分で考えて行動する人材)を育てるため必要なことの一つは“伝達力”だそうです。伝達力とは伝わる力。いかにして社員の行動を変容させられるか。それは社員がどのようなタイプかを見極めニーズを探し出し、タイプ別に接することが重要とおっしゃっていました。そこで報告の中で二人一組になり、本を販売するという形式で相手が望んでいるものを引き出すトレーニングを行ないました。そこで学んだのは思いを伝えるためには、ただ自分が説明するのではなく相手の話をよく聞き必要なものを見つけることが大切なことがわかりました。

二つ目は“影響力”です。人が言うことを聞きたくなるための影響力が必要で、それを与えるキーマンが

いるそうです。そのキーマンとは他の誰でもなく自分自身であるということでした。自分自身が考えや思いに否定的であるとその思いを伝えようとはしないでしょう。自分が“イエス”になることでその思いを伝えようとして伝わりやすくなるとおっしゃられていました。

グループディスカッションでは「あなたの明日からのベビーステップは？」というテーマで活発な意見が飛び交いました。ベビーステップとは赤ちゃんがハイハイするように最初に出来る簡単な行動を言うそうです。意見としては「社員の悩みなどを聞きたい」「お客様のニーズを早速考えたい」「自分の仕事を愛したい」等がでました。報告の感想としては「体験型研修のようで新鮮であった」「海外まで勉強に行く松本さんの姿勢に脱帽」等でした。

本年度最後の例会は明日への大いなる活力となる素晴らしい例会となりました。松本さんありがとうございました。

(文責 平野 圭司)



長崎支部 出島地区会 例会報告

日 時	3月26日(木) 午後6時30分
会 場	サンプリエール
テ ー マ	今期を振り返り来期にどう繋げるか？
報 告 者	役員一同

3月例会は変則的な内容を取り入れました。例年、年度はじめに新しい委員、役員に新組織の説明や新地区会長の基本方針、または、1人1人の役割や責任を

早い段階で自覚してもらい、この1年間の出島地区会を円滑に運営していくことを目的に、出島地区会の新委員・役員主催の例会を年度当初の5月例会で行っていました。しかし、1月役員会で「年度が始まったばかりの5月例会では遅いのでは？」という意見があり、では前年度の3月例会でやろうということになり、今回の例会では出島地区会運営の周知徹底月として捉え、毎年5月にやる例会を今回開催いたしました。

あらかじめ4班に班分けされたテーブルで班での例会運営をどのようにやっていくのか？何が良くて、何が問題だったのか？会員の出席率は？返信率は？など



など各班で様々な意見や提案が出されました。その内容とまとめを各班が発表し、それをみんなで共有いたしました。

その中で出てきたのは「班のチーム力を上げる必要がある！」ということで、SNS(ライン)などで日頃より繋がってれば、仲良くなれていいのでは？という提案があり早速、ライングループを登録する班や、班の全員をペア制にして最低どちらかは例会などに出席するという決まりごとを作ったかどうか？そうすると出島地区会出席率目標50%を超え、返信率も100%になるのではないかなど様々な参考になる提案や意見が出ました。これで来期の出島地区会運営



も安心だと感じました。

また、来期より出島地区会組織の改革の件にも触れました。というのも昨今の組織運営(県、支部、地区会)の役員会や委員会では、地区会長の諸会議への参加要請が多く、責任が過重となっている為、地区会長の成り手が出ず、既存地区会長が続投せざるを得ない現状がありました。そこで今回、新しい仕組みを作り、改定したい旨を伝えました。この内容は地区会の一部規約改定にも繋がりますので総会の承認事項といたします。来期も進化した出島地区会が楽しみです。

(文責 中村 貢一)

大村支部 例会報告

日 時	3月19日(木) 午後7時
会 場	長崎インターナショナルホテル
テ ー マ	弁護士が語る経営者が知っておくべき労務 トラブル事例と解決方法 ～今から始める守りの経営～
報 告 者	弁護士法人 大村総合法律事務所 佐藤 敬弘 会員

3月の例会は会員であり、弁護士である佐藤さんに報告していただきました。

会社経営をしていく上で従業員と経営者がお互いに理解し、信頼し合ったいい関係で仕事をしていくことはどの経営者にとっても従業員にとっても理想だと思います。しかし、最近では従業員が過酷な長時間労働等による過労死や精神疾患に罹患したことで遺族や家族から訴えられるケースや、時間外賃金の未払いと不当解雇問題による従業員から訴えられたケース等、会社と従業員との労務問題に関する様々なトラブルが各所で起こっているとメディアを通じて耳にすることが多くなっています。

今回の報告では、5つの項目(①労働時間と残業手当、②従業員の解雇、③労災と損害賠償、④対外的な責任、⑤弁護士費用等)に分けて労務問題に関する基本的な知識と経営者としてどういった対処をしていけばよいか、そして弁護士の費用について学ぶことがで



きました。

グループディスカッションの中では、それぞれの事業所で抱える問題を話し合いました。会社を法人化し

これから就業規則を作っていく中での課題、年齢の若いアルバイトと社員の間での問題、勤務記録簿の付け方、有給休暇の問題等、やはり身近なところでも労務に関する問題を皆さん多く抱えていらっしゃると思います。SNSやインターネットの普及により様々な情報が氾濫し、誰でも簡単に真実かどうか分からない情報をあつという間に手にすることができ、これによって会社を相手取って訴訟すれば誰でも簡単にお金が取れるというような間違った方向へと向かっているという意見がありました。また、現在の労働基準法が会社と従業員が平等にいい関係を築いていくためのものではなく、従業員寄りのものとなってしまうのではないかと、将来中小企業家同友会で新しい労働基準法を提案することもあるのではないかとといった意見もありました。グループディスカッションを通して、今後会社と従業員双方を守るための視点での対策や備えが必要になってくると強く感じました。

佐藤さんには今回の例会の報告の中で、弁護士という立場からのお話だけでなく、会社を経営する経営者

の立場でのお話もしていただきました。同友会に入会したおかげで身近にそのような方がいてくださることを非常に心強く感じたとともに、自社のことを労務の視点でいつもと違う角度から見直すためのいいきっかけとなりました。

(文責 橋口 仁一)



諫早支部 例会報告

日 時	3月24日(火) 午後7時
会 場	諫早観光ホテル 道具屋
テ ー マ	サステナブル企業を目指して ～同友会の学びを活かした経営戦略～ ～ビジョン構築から連携、そして継承へ～
報 告 者	(有)壽物産 代表取締役 永吉 誠 会員(島原支部)



今回は、諫早支部26名 他支部9名(大村2名、島原6名、佐世保1名) ゲスト:15名(長崎ウエスレヤン大学の先生4名、学生3名含む) 合計50名が出席しての賑やかな例会となりました。

入会して3年目とは思えないくらい同友会で勉強し、経験し、実

践している永吉さんの報告はテンションも高く、エネルギーで、ぐいぐい永吉ワールドへ引き込まれて行きました。昨年から覚えたばかりだというパワーポイントはプロでも驚く映像技術を駆使した内容で、200枚に及ぶパワーポイントでのプレゼンです。ちょっと凝りすぎの感もありましたが場所、状況に応じて内容も変更しているとのことでした。



まずは自己紹介です。中学を出てすぐに上京、様々な職業を経験してお父様の経営する会社の危機を知り帰郷しました。会社の立て直しのため決算書、帳簿を見てみると会社は大赤字!新たな道を模索していた時に落水さんより同友会の誘いがあったので藁をもつかむ思いで同友会に入会しました。見ることも、聞くことすべてが新鮮でどんどん同友会にのめり込んでいきました。連携を進め、今まで無かった会社の理念、SWO

T分析、経営計画書を作り上げさらに5年後、10年後のビジョンを立てることが出来ました。

今年から2名の新入社員さんが入って来て自分のビジョンを共有することも出来ました。同友会の活動にも積極的に参加してどんどん吸収してきました。特に今後の事業の柱となるペレットストーブは新潟同友会の会員との出会いによって具現化できました。

本日のテーマである『サステナブル』とは？、辞書によると「持続可能なという意味で将来の環境や次世代の利益を損なわない範囲内で社会発展を進めようとする理念。」と記されています。地域や社会に貢献するために材木から出る、おがくずを再生利用した木質ペレットを燃料とするこのストーブの普及に努めるとのことでした。また鶏の糞から有機堆肥を作ること

などでもこの理念を実践されています。

今日、言いたかったことは「自分が住んでいる地域は一次産業がほとんどで廃れている。何とかしたい！地域への貢献をしたい。」グループ討論のテーマにエネルギーシフトを選んだのは「多くの人に考えてもらい、知ってもらい、仲間を増やすこと。ちょっとでも気に留めてもらうことが重要だ。」と締めくくってもらいました。また、同友会についての話も整然とまとめられていて、この話だけでも充分に聞き応えがありました。改めて同友会は素晴らしい会だと皆さんが実感した例会でした。

(文責 山田 康成)

島原支部 例会報告

日 時	3月19日(木) 午後7時
会 場	HOTEL シーサイド島原
テ マ	期待を超える！ ～ シンプルに考え、ベストを尽くす ～
報 告 者	川上製麺 次期後継者 3代目 麺師 川上 貴弘 会員



今年度最後となる例会は座長制で進行という支部初の試みで開催しました。

製麺業の盛んな地域での発表ということもあって、同業者を含め29名ものゲスト参加があり、総勢約60名が出席する例会となりました。川上さんは製麺業の長男として生まれ、高校卒業後家業に専念され、現在では地元を代表する製麺実業家として頑張っておられます。

報告では、家業へ就いた理由が親孝行や地元愛、長男の責任等ではなく「単なる甘え心」と自身を謙遜した語り口から始まりました。

学生時代から特技でもあったPCを使ってネットショップを立ち上げる、製麺業の傍ら、寝る間を惜しんで自社製品の販売に取り組んでおられるなど、川上さんは物事に一生懸命で人以上にのめりこむタイプと

感じられました。

麺の歴史の勉強では、そうめん発祥の地である小豆島のマラソン大会に参加して生産者との交流を深めるなど活発な一面も伺えましたし、新商品の開発では全国でも類を見ない手延ちゃんぽん麺の開発とその商品パッケージ考案など1から開発に携わり川上製麺一押し商品に育て上げるなど多才ぶりが伺えました。この様な活動が奏功し、各地の特産物を使用したオリジナル麺の製造依頼が来たり、商品と共に同封した御礼状のお蔭で地元飲食店との取引が始まったりと、法人個人を問わず取引先の拡大に繋がっているそうです。

川上さんの報告の中で印象に残っている言葉が「『ない物』を作り出すより『ある物』から広げていく方がスムーズ』と言う考え方でした。島原産の材料のみで手延麺を製造し販売するだけではなく、他の製麺業者が作る個性があり魅力的だが販売に結びついていない手延麺を自らが販売していこうという柔軟な考え方がありました。プライベートな面で言えば、家業が忙しい中でも隙間時間やシーズンオフ期を活用し、地元イベントなど多種多様な活動に参加されるなど、長崎県下の地域振興にも大変貢献されておられます。

今回の報告例会には川上さんのご家族が参加されておられ、質疑応答の最後にお父様から息子宛に一言！『製造過程の全てを確実に修得するように！』と。事



業承継の瞬間に立ち合えて感動しました。

例会後の懇親会にはゲストの方も多数参加され、同友会の中身についての意見交換や新入会員さんへの

バッジ贈呈もあり、盛会の内に終わりました。

(文責 柴田 雅史)

佐世保支部 例会報告

日 時	3月20日(金) 午後6時30分
会 場	佐世保市民会館 会議室
テ ー マ	自分の人生に価値を！
報 告 者	なかの人事労務事務所 代表 中野 さとみ 会員



今年度最後となる3月例会は、佐世保市梅田町にて社会保険労務士をされている「なかの人事労務事務所」代表 中野さとみさんにご登壇していただきました。

大学卒業後、財務省長崎税関に入関され、秘書係や取締、審理という様々な経験をしていくなかで、日々の業務に疑問を持ち「これでいいのかな」という考えの中、退職されました。その後、法律事務所で勤務していく中、スキルアップの為に取得した行政書士資格をきっかけに、起業への道を検討されることとなりました。起業する前には、社会保険労務士の資格を取得したものの、特別に何かの見込みがあるわけでもなく、基本ゼロからのスタート。

しかし、1年間しっかりと経営や営業の勉強をされ、開業から2～3年目を迎えられる頃には経営もひと段落。そして、次の方向性を模索される中、同友会と出会い入会されました。

報告の後半には、ご自身の社会保険労務士としての経験の中から実際にあった質問や、労務士と行政書士や弁護士との違い、さらには実際にあったトラブルについて等と経営者である会員の方々が知りたかった情報を簡潔にわかりやすく紹介し、非常に有意義な時間となりました。質疑応答では、ある事例に対してアドバイスを求めるような内容から、実際に依頼した場合の金額について等と、もっと深く知りたい、話して欲しいという会員の方々の社会保険労務士に対する重要性を知るよい機会にもなりました。



今回の中野さんの報告の中で、就業規則は会社の権限を守る為にあるという言葉から、就業規則の重要性、まだ就業規則をもっていない企業の危機感を感じることがありました。お心当たりの方は是非、中野さんに一度ご連絡をお勧め致します。

自身が起業するに至った過程を振り返りながら紹介し、実際の仕事内容を質問形式で紹介する等と非常にわかりやすい内容となりました。中でも今回の報告テーマである「自分の人生に価値を！」というのは、中野さんが自分自身に向けた、これから先もずっと続いていく一つのテーマであると感じました。自分自身を振り返り、自身の価値を高めると共に、経営者や社員が良い環境で働き価値を高めていくことをサポートしていくことが中野さんが今後も求めていくスタイルであると思います。

今後、数年後に会社にするというプランも報告していただきましたので、応援し共に同友会で成長していこうと感じる例会でした。

(文責 岡本 武志)



北松浦支部 例会報告

日 時	3月10日(火) 午後7時
会 場	コラーゲンバイキングレストラン 愛しとーと(唐津)
テ ー マ	移動例会
報 告 者	(株)愛しとーと 代表取締役 岩本 初恵 氏



昨年12月に岩本社長の唐津支社に訪問する機会があり、今まで何十社も会社訪問してはありましたが久しぶりに感動というものを与えられた私でした。

本社は福岡で、地元の唐津に唐津支社工場とお食事処(100種類余りの健康食)がある、あのテレビコマーシャルで有名なコラーゲンゼリーの会社です。

全てがおどろき、もものき、山椒のき………?!

①まずは、事務所内スタッフさんのとてつもない笑顔と仕事ぶり。

②次に工場へ入ると工場というもののイメージがあまりにも違い過ぎました。何がなんでも明るい!電気も明るいが雰囲気も明るい!

そこで働くスタッフが気持ちよく働いてもらうのに電気代などなんのその!の精神。

勿論、仕事内容の効率化は 違うところできちんとがっちり。

③最後に60分の講演。岩本社長の生き方&経営の姿勢だからこうなのか!と全て理解できたのです。

この紙には表現できない、この一枚で終われない。感動の一言。百聞は、一見にしかず。同友会の経営者や社員の皆様もどうぞ行かれてください。行くことができない方は、本だけでも購入されてはどうでしょうか

●お勧めの2冊

生きる参考書 [人生の考え方、捉え方]。

天国からの参考書 [経営道]。

岩本初恵社長の成功者の5つの法則

1. よくしゃべる (前向きな言葉)
2. すぐに実行する
3. 起こったことへの受け取り方を変える (非難しない)
4. 自分より相手を思う (気遣い)
5. 本気で感謝の心を持つことで開ける

最後(株)愛しとーとの今年の春の新入社員会社側8名募集に対して応募人数ナント5000名とのこと。東京まで会社説明の場を設けたとのことでした。

(文責 松永 いづみ)



五島支部 例会報告

日 時	3月18日(水) 午後6時30分
会 場	福江総合福祉保健センター
テ ー マ	開放特許を活用したビジネス創出
報 告 者	一般社団法人長崎県発明協会 長崎県特許流通コーディネーター 森崎 克朗 氏

まず、報告開始前に今月入会の渡 慎吾さんへ森支部長よりバッジ贈呈が行われ、新たな会員を迎えての

3月例会となりました。

当初、5月例会を予定しておりました森崎氏の報告を急遽3月に繰り上げさせていただいたにも関わらず快くお引き受けいただき、また当日は海が荒れ模様で大変な思いをされてご来島下さいました。

特許権、商標権、知的財産権のお話しということで最初はお堅い内容なのかなと思っておりましたが、報告の冒頭『雪見だいふく』『いちご大福』の写真が現れ、親しみをもって話に引き込まれていきました。時々ダジャレを交えながらのお話で、いろいろな業種に活用



可能な事もわかり、まずは「やってみよう」ということが大事であると感じました。

その後のグループディスカッションでは『自社の強みは何か』について意見を述べ合い、その中からも開放特許の活用が可能ではないかと思われるものや、新たなビジネスチャンスの可能性も見える気がしました。



懇親会の中でも森崎氏は丁寧に会員の話しに耳を傾け、たくさんのご意見を聞かせてくださいました。とても誠実でお優しいお人柄にふれ、長崎県発明協会までも身近なものに感じられました。森崎氏に心より感謝申し上げます。

(文責 辻 千穂子)

青年経営者会 例会報告

日 時	3月21日(土) 午前10時30分
会 場	唐八景
内 容	春一番、ハタ揚げ大会



青年経営者会3月の例会として、21日に唐八景公園でハタ揚げ大会を行いました。毎年恒例になっているこの事業も今年で29回目となり、今年もマリア園、浦上養育院、明星園の子どもたちを招待して行いました。

当日は晴天にも恵まれ、ハタ揚げ日和の中、10時30分に開会の挨拶が行われた後、一斉に子供たちがハタを揚げ始めました。何度も参加しているので、慣れた手つきで高く上げている子もいれば、まだ小さいのでうまく上げられないで苦戦している子もいましたが、子供たちはそれぞれ好きな絵柄などを書き込んだハタに糸をつけて楽しそうに揚げていました。

お昼には、会員の方に準備していただいたお弁当と豚汁が配られ、子供たちもおいしそうに食べてい



ました。

午後からはゲーム大会が行われ、○×クイズや綱引きなどを行い、非常に盛り上がりました。

綱引きでは園対抗や大人対子供などの対抗戦を行い、大人チームが勝った際には、子供から「大人気ない」と言われ、笑いを誘う場面もありました。14時過ぎに閉会のあいさつを行い、最後は、帰る際に子供たちにお菓子を配って見送りました。

今年はそれぞれの園の方々、会員等合わせて100

佐世保支部 総務委員会主催研修会 開催報告



3月28日(金)佐世保支部総務委員会主催による税制改正勉強会が、アルカス佐世保にて開催され、総務委員長である東島税理士事務所 東島 誉志さんが講師として、平成27年度の税制改正について「法人実効税率の引き下げ」「世代間の財産の移転」「地域活性化」の3つをポイントとして解説して下さいました。

1つ目のポイント法人実効税率の引き下げに関しては、現在34.62%なのを平成27年度から段階的に引き下げをし、平成29年度以降までに20%台にすることを目指すそうです。これは世界的にみると非常に税率が高いので、世界基準に合わせるのが目的という話でした。一方下げる所も有れば上げる所も有ると言うことで、財政確保の観点から「欠損金繰越控除の見直し」や、「外形標準課税の拡大」等が行われる予定となっているそうです。「外形標準課税」については同友会でも反対運動を行っているので非常に興味がある内容でした。

2つ目のポイント「世代間の財産の移転」に関し



ては「結婚・子育て資金の贈与税の非課税制の創設」「ジュニアNISA」などが創設され若年層への財産の移転などを促すための制度が充実していく事になるとの事でした。若年層へ向けた制度が増える事はとても大切な事だと思います。

3つ目のポイント「地域活性化」に関しては「地方拠点強化税制の設立」「ふるさと納税の拡充」について説明され、ふるさと納税に関しては、テレビなどで取り上げられている事もあり盛り上がりました。結論としては、ふるさと納税は得をするそうです。

以上のように3つのポイントを中小企業と私たち個人に関わりがある箇所に重点を置いて、ちょっとした裏話などを含めながら解説をしていただきました。

この勉強会に参加して27年度の税制改革についての大まかな流れが理解できとても充実した勉強会でした。これを機に興味がある部分をもう少し深く勉強したいと思います。

(文責 府川 正樹)

島原支部 鹿児島訪問!!

事の発端は2年前の九州沖縄ブロック支部長研修会の時、私と敷島前支部長が鹿児島の会員と意気投合して熱い夜を過ごした事でした。深夜まで熱く語り合った末に、『今度島原から鹿児島に行くけん』と約束。中々約束が果たせないでいた昨年末の例会で、報告者が毎年知覧を訪れている旨と涙無しでは聞けない隊士のエピソードを報告。チャンス到来!早速支部役員会に諮ると有志で行くことが決定したのです。

当日は早朝から島原外港に8名の有志が集まり、いざ往かん!一路知覧へ!特攻記念館では復元されたゼロ戦の前で記念撮影をしたのちに入場。館内には若くして特攻で散った少年隊士の遺書が数多く展示されており、それには彼らの最後の想いが、声に出せない無念の叫びが切々と綴られておりました。

戦略拠点が次々と撃破され続け、敗色が日増しに濃くなる一方でも『負ける』と口に出せなかった当時、彼らはどんな想いを胸に秘めて『不帰』の道を選んだのでしょうか。『負けない』為、故郷に遺す大切な家族を守る為、戦争の無い平和な未来の為に決死の覚悟をしたのではないだろうか。検閲が厳しい時代の中で、



タテマエの裏に心からの叫びを記し、軍人として一機玉碎の特攻作戦に散るしか道が無かったのではないだろうか。

戦後70年が過ぎた現代の日本に住む我々は今、彼らに何と応えるべきであろうか。今、彼らに恥じる生き方をしていないか。当時彼らがどんなに願っても成せなかった事を、今の我々は当たり前前に捉えていないか?飽食と使い捨ての現代に生かされている私達経営者は、もっと当時想いを馳せて国民の為に成すべき事を成すべきである。隊士が家族と最期の時を過ごした富屋食堂に遺された逸話など、まだまだ書き足りないが(右寄りになり過ぎるので割愛)たくさんの想いを胸に抱えて知覧を後にしました。

市内で鹿児島同友会会員と合流し、食事をしながら4卓に分かれ意見交換会を開始。乾杯直後から自己紹介、経営理念や近年の目標、自社のプレゼン、其々が感じる鹿児島と長崎の市場情報の交換。更には各々のブランディングから経営戦略に至るまで垣根を外して意見交換を行いました。名君、島津斉彬公の時代から貿易をしているだけあって、様々な点で長崎との共通点も多く互いに学び合いとなった、文字通りあつという間の3時間でした。

後半は会員経営のお店に移動して、本格的に鹿児島芋焼酎を傾けながら聞き足りなかった事柄や裏話に花を咲かせて深夜まで…。そして最後には、本年5月の九州沖縄ブロック支部長研修会 in 鹿児島での再会と、4年後の全研長崎大会での再会を誓って固い握手を交わして別れました。

翌日は先方より紹介された『(株)九州タブチ』様に見学させていただきました。まずは会議室で事業報告。ここは、地下水道管から家庭への給・止水栓・接続継手やメーター機器などの、開発や設計・製造の会社です

1970年に大阪の(株)タブチが鹿児島県より誘致を受けて自社製造工場として創業。水道普及率の急激な上昇を背景に急成長しましたが、経営者だけが突っ走って仕切る管理統制型経営と大ロット見込み生産で1999年には深刻な経営危機に陥り、全従業員の25%30人ものリストラを断行せざるを得ない状況にまで追い込まれていたのです。そこから奇跡のV字回復を達成した経営革新の手法とは、経営者としての過ちを素直に認め、先ずトヨタ生産方式の徹底でロス無くし、と同時に社員の自立を支援するという180度スタンスを方向転換した事だそうです。『社員の成長なくして会社の成長なし』



では危機以前よりも成長した企業に育ちましたし、まだまだ成長途中だともおっしゃられました。

実際に工場内を移動すると、教育の賜か、彼等のモチベーションが高過ぎるのか、視界に入る全てのスタッフさん達が挨拶と笑顔を欠かさないのです！私達が心地よく過ごせる様にウェルカムボードや個人名でのメッセージカードを添える等気配り心配りを欠かさないのです。今回の見学も、急な申込みだったにも関わらず快諾いただき、且つ一切の手抜き無しで余す所なく企業概要報告から工場細部への質問に至るまで真摯に対応をいただきました。接客業じゃない製造業の現場の方々に。

これも同友会三つの目的を体現した姿なのだなーと感心しながらお別れとなったのですが、最後も私たち全員に地元焼酎のお土産までいただき、もう、学びに行ったのか、おもてなしを受けに行ったのか分からなくなる程の視察3時間でした。帰りの車中では、其々の感想や学んだ事に花咲かせながら（5月にまた逢う約束を胸に）島原への帰路に着きました。

(文責 永吉 誠)

中同協 第27回中小企業憲章・条例推進本部会議 参加報告

2月3日に開催された中小企業憲章・条例推進本部会議に出席しました。

1. 鋤柄中同協会長挨拶
2. 2014年11月より2015年1月までの中同協の政策・対外活動の経過報告と外形標準課税適用拡大反対の署名などの取り組み進捗状況報告がありました。署名集約状況は、全国で348,726件、長崎県で8,693件となっています。
3. 6月「中小企業憲章・条例推進月間」をどのように成功させるか。2015中同協中小企業憲章・条例推進月間キックオフ集会の企画案の主旨として①中小企業憲章制定5周年を記念し憲章の推進状況を国政の場で検証することにより、国会議員の認識を深めていただき、憲章の国会決議を含め国政での中小企業憲章の内容実現の推進力とする。②本集会を「中小企業憲章・条例推進月間」のスタートを宣言する取り組み

と位置づけ、全国の同友会に憲章・条例(中小企業振興基本条例)推進運動を呼びかける③「地方創生」の主役でもある中小企業・小規模企業の活性化のため、中小企業憲章・条例の具体化のための政策提言と意見交換の場とする④中小企業憲章・条例の具体化のため、行政、他団体とも連携を深める場とする等の提案がありました。

4. 中小企業振興基本条例の制定状況は、2015年1月15日現在で31道府県、96市17区11町となっています。

5. 振興条例の取組事例報告として宮城同友会・福島同友会より報告がありました。討論テーマ①わが同友会の中小企業振興条例制定・活用・見直し運動②3点セット(条例・調査・振興会議)で地域を元気にする方法を考える。のテーマで各地同友会の取り組み状況について活発な討議を実施しました。大林 弘道氏

より最近の状況についてのコメントがありました。
6. 第45回全研(神奈川)及び第3回「東日本大震災復興シンポジウム」(宮城)、第47回総会(岩手)についての実施予定報告がありました。

7. 石渡氏から今回会議のまとめがあり閉会しました。

(文責 西尾 廣幸)

中同協 第2回企業連携推進協络会 in 広島 参加報告

2月12日開催された中同協企業連携推進協络会 IN 広島に出席しました。

1. 国際化対応とASEAN・タイ視察・中国との連携、小グループ設置などについて、畑野代表より提案があり、意見交換しました。①企業連携推進協議会内のタイ・ASEANグループの設置、9月上旬の企業連携推進協络会のタイ開催が確認されました。

2. 沖縄同友会より観光関連グループの設置ならびに観光フォーラム開催の提案があり意見交換した結果、①全国の観光関連についてのグループができ情報交換できれば面白い ②テーマをもって、地域の面で対応する観光が重要である ③海外観光客への取り組みが必要である等の意見があり、観光関連グループの設置が確認されました。

3. 中国との連携について、三重同友会より「昨年11月に食品の安全・安心に関する国際会議に参加した。中国の貿易促進委員会と中同協との連携について協定を締結する。中国は中同協の組織や労使見解に関心があるようだ」との報告がありました。その後、同友会と中国との連携について討議しました。中国の貿易促進委員会は、貿易、知的財産権などの窓口になっている。経団連やジェトロなども毎月協議している。中同協としても連携し正式な窓口をつくったらどうか。5月に中国から代表団が来るので、協定を結びたい。

意見交換を行い連携するには、同友会の考え方をしっかり伝えていくべきではないか。連携する場合、しない場合の基準をつくる必要があるとの意見がありました。

4. 同友会紹介の英語対応について、同友会の理念などは英語版があるが、今後は活動内容について英語版の対応を進めていくことを確認しました。

5. 企業連携アンケート結果について、36同友会に企業連携や産学連携、国際連携など何らかの形で連携の組織があること等の報告がありました。

6. 各同友会から連携活動状況について報告がありました。

7. 2社の企業見学に参加しました。

①永本建設(株) 訪問 報告: 社長 永本 清三氏

広島県産材と自然素材を使った木の家で作る注文住宅。漁民の森運動に携わり、木質バイオマスなどエネルギーシフトの実践にも取り組む事例報告と会社見学に参加しました。

②(株)EVENTOS(イベントス) 訪問 報告: 社長

川中 英章氏 「人を活かす経営」や食のエンターテインメント(洋食飲食店、ケータリングサービス、ワインショップ、農産物の生産・加工・販売、催事の企画運営)に取り組む事例報告と会社見学に参加しました。

(文責 西尾 廣幸)

中同協 第2回政策委員会 参加報告

1. 3月18日開催された中同協政策委員会に出席しました。2014年11月より2015年3月までの5ヵ月間の政策推進と憲章推進にかかる活動状況の特徴について、①外形標準課税適用拡大を断念させた。署名集約状況は358,202件となっています ②日本政策金融公庫との関係では福井同友会が10番目の覚書を締結し関係が深まった ③連合、ものづくり産業労働組合で「労使見解」振興条例の理解が深まった ④6月2日の憲章推進月間・キックオフ集会にむけてのスタートを切った等の報告がありました。

2. 「経営者保証に関するガイドライン」への金融機関の対応については、すでに利用している9.9%利用を検討中28.3%「ガイドライン」を知らない40.6%利用する予定はない21.2%となっている。意見交換が行われ、契約書をよく読むこと、経営者が

死亡した場合には預金が凍結されることや相続の問題が発生するので注意を要するとの意見がありました。

3. 6月「中小企業憲章・条例推進月間」の取り組みについて、企画案の提案がありました。

4. 第45回全研(神奈川)政策関連分科会のまとめと第47回定時総会(岩手)政策関連分科会についての報告がありました。

5. 特別講演として、「成長戦略における小規模企業政策の位置」について神奈川大学名誉教授 大林 弘道氏の講演がありました。

6. 「2016年度国の政策に対する中小企業家の要望・提言(案)」について提案がありました。①中小企業憲章を国会決議とし、その内容を実現する ②公正な税制の実現を ③中小企業が地域で仕事をつくりだすための支援の抜本的強化 ④安心して働ける社会保障・

7. 各地同友会の政策活動報告と中小企業振興基本条例制定、地域活性化等の取り組みについて各同友会より報告がありました。

2日目の常任幹事会は一通りの議事が進行されました。午後のみの開催のため、グループディスカッション時間は多くは割けませんでした。中同協の定時総

ディスカッションを通して、前述しましたが日本経済ビジョンや議案をしっかりと読み込み、長崎同友会で取り組まなければならないこと、共通の意識として持つべきものなどを、優先順位をつけて持ち帰ることの必要性を感じています。多くの事を一気に取り掛かることはできませんが、過去の実績が少しずつ積み重ねて来られた同友会運動を継承し、そしてまた進化させ次へとつなぐことを再認識しました。専門的に同友会運動の役割を担う事務局として、情報を精査し、発信し、実現のサポートを行っていきたいと思います。4月1日は長崎同友会初の合同入社式開催、また長崎県の振興基本条例も施行されました。地域が活性化する土壌は着実にできてきていると思います。今後の長崎同友会の発展を強く感じた2日間でした。

3月13日(金)、九州・沖縄ブロック事務局長会議
終了後に参加させていただきました。財務省福岡財務
支局、金融庁が主催されたシンポジウムでした。

そこで得た様々な意見に対し人材育成と再分配をすることで成功した事例としてエストニアが挙げられました。エストニアでは小学校の屋根の修理をするより生徒のためのパソコン導入を優先するというITとバ

イオテクノロジーに集中投資を行い、音声通話ソフトで有名な Skype が誕生したとのことです。

最終的には、地域経済や地域社会の情勢を把握したうえで、①魅力づくり②伝統や知識の継承③企業家精神の継承の3点を地方創生への提案としてまとめられました。魅力づくりではその地域の歴史、文化を理解し、住みたい街にすること。伝統や知識の継承は、複数の感覚器官(モダリティ)に入力された情報をまとめて整理し、1つの情報を形成する「クロスモーダル」がカギになること。企業家精神の継承では周囲の人が困難だと思ふ事柄をチャンス、可能性ととらえること。この3つを心に留め、人口が減少する社会において今何をすべきか、質的にも深い問題提起ではありますが、同友会運動を通して自己の成長を図り、連携し地域がよくなっているという近未来創造のために、今できることを積み重ねていきたいと思います。

(敬称略)

Dr. Yoko Kikuchi is an Associate Professor at the Department of Health, Behavior, and Society, Johns Hopkins University. She is also a senior advisor at the Center for Communications Programs, Johns Hopkins University. Her research interests include reproductive health, adolescent reproductive health, and maternal and child health.



Dr. Shiro Kikuchi is a Professor of the Department of Chemistry, Faculty of Science, Yamaguchi University, Yamaguchi, Japan. He received his B.S. and M.S. degrees from Yamaguchi University and his Ph.D. from the University of Tokyo. He has been a member of the Japanese Chemical Society and the Japanese Society for the Study of the Chemistry of the Solid State. His research interests are in the chemistry of the solid state, particularly in the synthesis and properties of new materials.



<交 代>

支 部 名	大村支部	
氏 名	ひらの たびと 平野 旅人	
企 業 名	司法書士 平野旅人総合事務所	
役 職 名	代表者	
企 業 住 所	〒856-0828 大村市杭出津3丁目395-7	
T E L	0957-46-6133	F A X 0957-46-6134
業 種	司法書士・土地家屋調査士・行政書士	
企 業 P R	不動産登記、商業登記、会社設立、相続、贈与等に伴う名義変更等の手続きを行っております。	

支 部 名	大村支部	
氏 名	ふるいち ひろし 古市 寛	
企 業 名	弁護士法人大村総合法律事務所	
役 職 名	弁護士	
企 業 住 所	〒856-0828 大村市東三城町7-7 駅前すすきビル3F	
T E L	0957-54-3750	F A X 0957-54-3723
業 種	法律事務所	
企 業 P R	大村市において36年以上の長きにわたって法律事務所を構えて参りました。今後とも最良の法的サービスを提供できるよう努力して参りますので、かかえている心配事や悩み事をお気軽にご相談ください。	

支 部 名	佐世保支部	
氏 名	おおたけやま ひろし 大竹山 浩	
企 業 名	(株)スマイル	
役 職 名	代表取締役社長	
企 業 住 所	〒859-3241 佐世保市有福田4204-2	
T E L	0956-27-0710	F A X 0956-27-0711
業 種	OA機器販売	
企 業 P R	御客様第1・信用事実第1・健康第1 感謝で頑張ってます。	

+++++

<交代を伴う 復会>

支 部 名	大村支部	
氏 名	なかむら こうすけ 中村 康祐	
企 業 名	(株)ナカムラ消防化学	
役 職 名	代表取締役	
企 業 住 所	〒856-0042 大村市平町1933	
T E L	0957-52-1617	F A X 0957-52-1623
業 種	消防ポンプ自動車製造・消防総合商社	
企 業 P R	九州で唯一の消防ポンプ自動車メーカー。消防・防災の総合メーカーとして安全・安心を通じ地域・社会へ貢献します。	
スポンサー	首藤 洋一	

支 部 名	諫早支部	
氏 名	おおた あきら 太田 陽	
企 業 名	(株)エフエム諫早	
役 職 名	局長	
企 業 住 所	〒854-0061 諫早市宇都町29-1 諫早市健康福祉センター内	
T E L	0957-27-0771	F A X 0957-27-0840
業 種	ラジオ放送局	
企 業 P R	私どもレインボーエフエム(エフエム諫早)は、2000年1月、長崎県央地域(受信可能人口約24万人)をエリアとするコミュニティFM局として開局以来、県央2市8町の各行政機関の広報、同地域で開催される各種イベント情報、天気予報、道路交通情報をはじめとする生活情報など、身近で役に立つ様々な情報をお伝えしております。その他、各種番組の企画制作・CM制作・司会進行・アナウンス業務等も行っています。	
スポンサー	杉本 誠二郎	



広告募集

<4cm×9cm>

複数月 割 引	6ヶ月	12,000→10,000
	4ヶ月	8,000→7,000
	3ヶ月	6,000→5,000

V・ファーレン長崎



V-VAREN
NAGASAKI

応援マット

ダスキン栄進 電話 095-823-7633

瀧川 隆 会員(長崎支部 出島地区会)

4月理事会 議事録 抜粋

4月8日(水) プライムステージ

開会挨拶－松尾代表理事

暑さや寒さの日が続きます。本日は期の最後の理事会ということでご参加に深い感謝を申し上げます。会勢も新しい仲間が増え今日の理事会で承認をいただきますと558名になります。理事をはじめとして皆様の努力の賜物です。4月1日には合同入社式が開催され、私も社員を連れて参加しました。参加した社員からも感謝され当日の資料もあらためて社員に配布し再度勉強していただく予定です。今後は3回の研修ということもあり合計4回もの研修を同友会でしていただくことにあらためて感謝します。理事の皆様も1年間大変お疲れ様でした。来週の総会を乗り切り700名達成に向けて再度またよろしく願いいたします。

杉本仲間づくり委員長総括

1年間本当にありがとうございました。期首が550名でどうなることかと思いましたが今月しっかり増えているのでよかったと思います。3月ギリギリまで増強を行ったので来期は2月を締切にするなど検討していきたいと思います。また期末になり退会者が増えて残念です。特に会歴が長い方や先輩が退会するというのが残念です。今年1年またよろしく願いいたします。(松尾代表より)
やればできるのでみなさんががんばりましょう

協議・承認事項

1) 2015年度に向けて

●第44回定時総会について

ホテルニュー長崎…4月16日(木) 14:00～ 会費4,000円
記念講演：広島同友会 求人社員共育委員長 川中 英章 氏
記念講演テーマ「人が活きる会社になりたい」
式次第案
→開始時間を14:00、第1部にて退任・新任役員挨拶、第3部のイベントとして支部長(支部代表)から一言、その他新設委員会、仲間づくり委員会、フォーラム担当支部からの一言を設ける

■提案事項

・第1部、第2部、第3部司会、議長、議事録署名人、スローガン
唱和、記念講演謝辞、万歳三唱者の選定について
(三役会案)
出席状況を見ながら三役会一任を提案
→三役会案を承認

●2014年度決算案・2015年度予算案について

→五島支部よりwifi契約提案を含めて、吉田財務委員長より(監査報告含む)
→吉田財務委員長より詳細を報告いただく
(意見として)
・通常の企業で例えるなら、売上が上がり、利益が減るようなことだが会勢が伸びて財産が減っていることの要因は？
→吉田財務委員長より、活動費1,000円の定率、中同協負担金、人件費などが考えられる
・前年との比較を記載いただくとより資料としてわかりやすいのではないか
→吉田財務委員長より、今後そのような資料の作成を検討していく
(総じて)
決算案、予算案を承認(五島支部のwifiも含めて)

●第22回経営フォーラム実行委員長について

→井手眞悟会員を実行委員長として提案
→井手眞悟会員を承認

●2016年賀詞交歓会および役員研修会について

(三役会案)
・賀詞交歓会について、1月14日(木)または15日(金)で検討。記念講演は日銀支店長を候補としてあげる。14日はすでに出島地区会・大村支部役員会、15日は佐世保例会が年間スケジュールとして設定されているため、日程を含めて内容を各支部・地区会で協議いただき次回理事会で報告・提案いただきたい

・役員研修会について

現段階では2月20日(土)としているが香川全研(2月18・19日)の翌日、また1月の賀詞交歓会と県の行事が連続することから開催時期について各支部・地区会で協議いただき、次回理事会で報告・提案いただきたい
→上記三役会案を承認

●経営・労務担当委員会からアンケートの実施について

→経営・労務担当委員会としては第4次ビジョン達成に向けて経営理念、経営指針を作成している会員を数字で把握したいと考えている。そのための取り組みとして会員全体にアンケートを実施することを提案
→経営・労務担当委員会からの提案を承認
(松尾代表より)
いい取り組みなので各支部回答への協力、呼びかけをぜひよろしくお願いします

2) 九州・沖縄ブロック 第9回支部長支部役員研修交流会について (5月21・22日(木・金)：鹿児島)

→吉澤会員事例報告(20分)
(三役会案)
参加目標を10名とし、プラスアルファの参加促進を提案
→上記三役会案を承認

3) 相談役について

(三役会案)
規約第13条「理事会の承認を得て相談役を置くことができます」に伴い過去の代表理事経験者である下記の6名の方を相談役に推薦(下記は歴代順)
泉健彦会員(長崎浦上)、永池泰典会員(長崎浦上)、松田一成会員(諫早)、岩崎誠一会員(長崎出島)、加悦明良会員(長崎出島)、平湯湧一会員(諫早)
※上記の方が県の相談役になっていただいた際、内規集に記載
→上記三役会案を承認。今後6名の方が相談役となる

報告・連絡事項

1) 例会について(更なる例会の充実をめざして)－尾崎例会委員長

4月は総会を例会に充当する支部がほとんどです。5月、6月は県央3支部、佐世保・北松浦、長崎の慶祝例会など合同例会が多くなっています。例会出席率に関しては2013年度39%だった数字が2014年度は40%となりました。第4次ビジョンでもある80%の出席率にはまだ遠く及びませんがコツコツと積み上げていくしかないと思います。次年度は何とか50%の壁をクリアしたいと思いますので各支部またあらためてよろしくお願いします。その中でも今期はたびたび報告しましたが横のつながり、情報共有がうまくいき、例えば質疑応答に関して佐世保の座長から質問して報告者が回答するパターンなどが成功した事例、多々あったと思います。今後はグループディスカッションの質を高めていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

2) 3/5・6(神奈川)全研参加報告(金井副代表・吉澤委員長・宮田新政策委員長、大塚支部長・田口事務局員)

→各報告をいただく
・人を生かす経営を学ぶことができた
・非常に深い学びを得た
・大村支部では全研に照準を絞り9月ごろから共育委員長を中心に参加の呼びかけをおこなったため14名もの参加ができました。3大会のうち、ぜひどれかには参加し何かを感じてほしい
・初めて全国大会に参加した会員がすごく勉強になっていた。まだ参加したことがない会員に対する参加促進をぜひお勧めする
・夜大村支部で再度集まり、それぞれの分科会の報告をしあうことで更なる学びがあったと思う

3) 3/12・13(福岡)九州・沖縄ブロック事務局長会議参加報告(峰事務局員)

→6月の代表者会議で再度検討しその後各地同友会で議論いただく内容もあるのでその際にあらためて提案と報告を行う

- 4) 3/13(福岡)地域密着型金融シンポジウム参加報告(峰事務局員)
→キーワードはイノベーションとリノベーション。今の情勢に対して必要な考え方を講演で学んだ。詳しくは広報誌を参照ください
- 5) 3/18・19(東京)中同協政策委員会および常任幹事会参加報告(松尾代表・峰事務局員)
(松尾代表より)
通常の議題にそっての報告、決議等の後、定時総会の議案や中同協のあり方に対する短い討論があった。私のグループでは賃上げに対する議論もなされ、運営の議論も当然だが同友会らしく情勢や経営の議論も必要だと感じた。今後理事会でも方法を検討していきたいと思う
(峰事務局員より)
政策委員会から参加。中同協の規約、定時総会のあり方についてはぜひ理事の皆様はご一読いただきたい。また政策委員会の範疇ではあるが日本経済ビジョン、2016年度国の政策に対する要望・提言について、内容は深いが理事の皆様は内容を熟読いただき今後の条例施行、政策反映、振興会議においての提言などに有効活用いただきたい
- 6) 3/21青年経営者会ハタ揚げ大会開催について(山口青経会長)
→毎年恒例として開催。当日は100名近くの参加をいただいた。マスコミも数社取材いただき掲載していただいた。来年は30回目という節目なので開催を通じて同友会をしっかりとアピールしていきたい
- 7) 4/1(大村)合同入社式開催報告(土井委員長)
→峰事務局員より代理報告。29名の新入社員を迎えて長崎同友会として初の開催。司会という立ち位置から新入社員と会員である経営者の顔が一望できた。特に新入社員の社会人宣言では自社の社員が発表している時の会員の顔がイキイキとしてとても感動した。今後は年3回の社員研修(入社3年未満の社員含む)を開催しつつ、共同求人開催に向けて土井委員長と連携していきたい。ご協力いただきありがとうございます
- 8) 4/8(長崎)長崎新聞社との意見交換会について(永末委員長)
→長崎新聞社才木社長と意見交換会を開催。今後は互いに情報提供しながら中小企業の実態を掲載いただけるよう情報広報委員会を検討していきたい。
- 9) 3ヵ月会費滞納者について－該当者なし
- 10) その他
(町田政策委員長より)
4月1日県としての条例が施行された。長年意見交換会などを開催してきた結果が実った形となった。振興会議の設置は見送られたが今後意見交換会の開催などを通して施策を講じていきたいと思うのでまた宮田新政策委員長のもとご協力よろしくお願いします

會員消息

	長 崎 (浦上) (出島)	大 村	諫 早	島 原	佐世保	北松浦	五 島	合計		
目標	227	127	100	67	80	50	120	40	40	624
期首	201	115	86	57	54	40	99	33	25	509
現在	198	108	90	64	63	46	111	45	23	550

退会者(敬称略)